

http://www.e-meisei.net

No. 67

発行 (公社)愛知建築士会名古屋西支部
編集 広報渉外委員会
名古屋西支部西一丁目20番49号 クラ設計内
TEL(052)908-0939 FAX(052)908-0836
印刷所 株式会社 ウエルオン TEL(052)732-2227



青年委員会活動報告 パネル展 みのじの館 を終えて

委員長 原 英光

私たち名古屋西支部の活動の拠点でもあるみのじの館で、12月8日の土曜日に地元の建物や町並みを写真やスケッチなどを使って紹介するパネル展を開催しました。みのじの館の前を通る美濃路は、東海道の官宿と中山道の垂井宿を結ぶ脇往還であり、宮から名古屋、清須、稲葉、萩原、起、墨俣、大垣の7宿を経て垂井に至る全長約58kmの街道で、みのじの館は庄内川の枇杷島橋からおおよそ300mの場所にあり。今回のパネル展では美濃路の庄内川から五条川までを私たちが実際に歩いて気になる建物や風景を撮り集めた写真を展示しました。普段何度も通っている道でも改めて写真を撮る目的で歩いてみると、今まで発見できなかったものが幾つも見つかりました。また、みんなが撮った写真を持ち寄ってみると、こんな所があったんだとまたまた再発見が幾つもあり

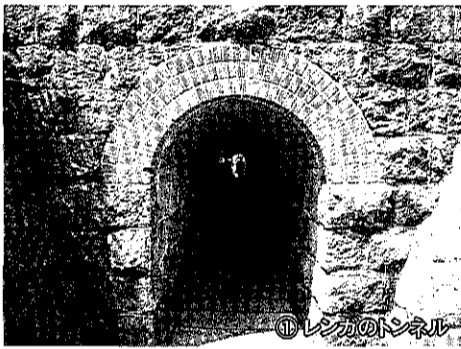
ます。パネル展に来ていただいた地元をよく知る方々からも「意外と見落としている魅力的なものがまだまだ在るもんだね」と言っていただきました。

たくさん展示したパネルの中から幾つか紹介したいと思います。写真①は枇杷島橋から100mほど西のJRの高架下の「レンガのトンネル」です。美濃路からは北に少し入ったところにあります。人が通るのにちょうど大きさで、自転車で通ると頭が当たりそうで、ちょっと窮屈な感じのする小さくて雰囲気のあるトンネルです。写真②は「間屋記念館」です。当時の様子を再現した展示もあり、建物も無料で見学することができます。写真③は1891年築の町家で、西枇杷島町内で唯一戦前に建てられた木造三階建ての建物「旧おこのみ・麦」です。写真④は古い町屋を改造して作られた屋根神様のある建物「鉛茶庵」

です。美濃路散策の休憩場所として憩いの場となっています。その他にも沢山の魅力的なところを見つけることができました。

こういった催しを通して地元の魅力を私たちがより知ることとなり、またいろいろな方に私たちの街の魅力をお伝えすることができればと思います。

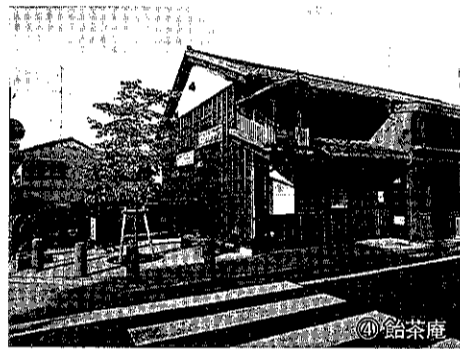
今後もみのじの館を中心に、パネル展ばかりでなくコンサートや講演会など色々なイベントを計画していく予定ですので、気楽にご参加ください。



① レンガのトンネル



③ 旧おこのみ・麦



④ 鉛茶庵



② 間屋記念館

中村区 船入町 伝馬橋史跡説明板完成 白井 鏡造

12月6日(木)、伝馬橋史跡説明板の設置工事が行われました。朝9時ごろには既に、伝馬橋西岸の予定地に施工会社、説明板製作会社の担当の方々が工事を始めていました。「四間道・那古野界隈まちづくり協議会」の仲間、「堀川文化を伝える会」会長の伊藤公夫さんはもう既に立ち会いに来ていて、工事日和を喜んでくれました。

当支部の牛田支部長、水谷友彦さんも早々に訪れ、清須越400年事業ネットワーク関係者も揃いだした頃、地元新明学区区政協力委員長の坂堂修二様、船入町町内会長の水野茂様、同副会長 森正利様も設置立会いのため、わざわざお越しいただきました。

設置作業を見守るうち、名古屋市緑政土木局と中村土木事務所の担当部署の方々も視察に訪れ、また、名古屋都市センターからは助成事業の「活動状況の視察」のため、工事実施の状況を写真撮影するなど熱心に調査されていました。

しばらくして、史跡説明板の仮設置が行われ、

ここで集合写真を撮影。ようやくここまでたどり着いた喜びを関係者皆で分かち合いました。町内会長、副会長様から、喫茶店でコーヒーをご馳走になり、今後この地域のまちづくりに、協働してゆくことも話題になりました。

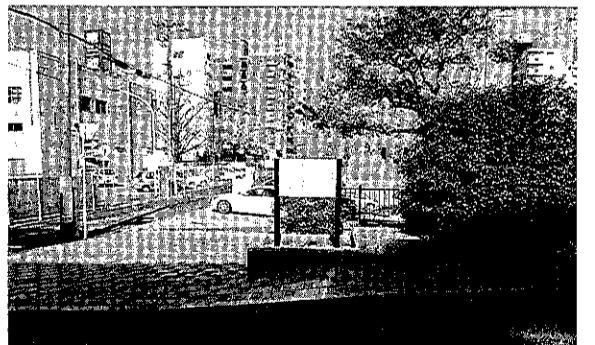
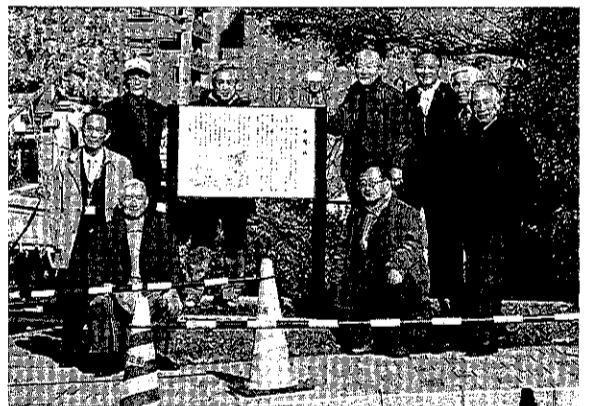
後日、町内会長様からお礼のFAXが届きました。「史跡説明板設置に際し、いろいろご配慮頂きあり

がとうございました。笹島小中学校、校長、教頭先生方も殊のほか喜んで頂けました。」

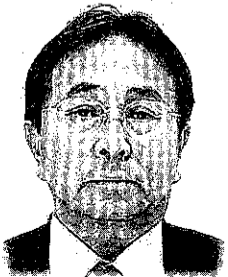
このようなことがあるから、まちづくりは楽しい訳です。

愛知建築士会名古屋西支部
中村区船入町史跡説明板が、名古屋都市センター「活動状況の視察」を受け、設置された。

平成二十五年十一月



お知らせ



当支部常議員の山田正博さんが、永年にわたる士会活動に対して、平成24年度日本建築士会連合会会長表彰を受けられました。現在も愛知建築士会本会の常務理事として活躍されています。

お祝いを申し上げますとともに、ますますのご活躍をお祈りいたします。

平成25年度支部通常総会のご案内

- 日時 平成25年4月18日(木)
午後6時より(受付:5時30分より/懇親会:7時より)
- 場所 ホテルサンルートプラザ名古屋
中村区名駅2-35-24 TEL 571-2221

※つきましては、返信用ハガキにて4月8日(月)までに必ず出欠のご回答をお知らせいただき、欠席の場合は委任状欄に記名・押印くださるようご協力ください。メールアドレスのご登録もお願い致します。

「みのじ会視察旅行」に参加して

江口 眞樹

2月24日の日曜日、枇杷島みのじ

会主催、美濃路まちづくり推進協議会共催の奈良方面バス旅行に参加しました。朝8時に予定通り出発、参加者は西支部からの8名を合わせ17名でした。最初の目的地奈良町落語館へはほぼ時間通り10時半ごろ到着、「さんが俵座（くるまざ）」の林さん（元奈良市職員）と猫鹿鹿吉こと田中さんから、奈良町のあれこれについてお話を伺い、続いて奈良町の案内をしていただきました。“さんが”とは仏教用語で“志を同じくする人々の集まり”で、車座になって話そうとの意味で名付けられたそうです。奈良町は、猿沢の池をはさんで興福寺の反対側にある、昔の町屋が並ぶ町々の総称で、元興寺、十輪院などのお寺、いろいろなお屋さん、食事処などが並んでいます。観光客が多数訪れますが、今に至るにはいろいろな苦勞があったそうです。中にはまだ崩れかけのような家も残っていたり、町の景観を壊すような、ハ



三輪そうめん山本にて(右端が山本氏)

美濃路ウォッチング

文化のみち 二葉館 事業参加

白井 鏡造

3月2日(土)、二葉館(旧川上貞

ウスメーカーの新しい家が忽然と現れたり、問題も抱えているようです。お二人のご案内で12時ごろまで滞在し次の目的地に向かいました。バスで45分ほど、待望の昼食場所である「三輪そうめん山本」に着きました。

実はここの建物が数々の建築賞を取っていて、築30年以上にもかかわらず、とても手入れの良い見ごたえのある質を保っています。食事も見栄え、味とも一級でした。食事後には今回の参加者の一人である愛知県立芸術大学野田教授のお計らいにより社長の山本氏直々の案内で建物見学をさせていただきました。

次の目的地は飛鳥です。ここで事件が起きました。お腹も満ち、順調にバスを走らせていた時に、昼食代を払っていないことが発覚しました。集団食い逃げです。あわててバスを戻し、平謝りで支払いをすませました。「三輪そうめん山本」社長様、建物案内もして下さったのにどうもすみませんでした。

飛鳥では石舞台を見学し、次いで飛鳥大仏で有名な飛鳥寺へお参りをしました。飛鳥寺は今ではこじんまりしていますが往時は相当の規模だったようです。

さていろいろあった旅行でしたが、お世話をしていただいた後藤会長をはじめ枇杷島みのじ会の皆様ありがとうございました。道中、雪もちらつく寒い一日でしたが、楽しく思い出の多い旅行となりました。

奴邸)において、文化のみち二葉館主催の「深ぼり講座-清須越と美濃路-」が開催されました。講師として私がパワーポイントを使ったスライドで、寺社、町家、町名その他、形として残されている清須越の面影を示し、2時間にわたり説明いたしました。定員20名を超え、22名が参加し、楽しい雰囲気なかで終わることができました。3月30日(土)には、「広がり講座-美濃路を歩く-」が予定され、西区浅間町から西枇杷島町の一休庵まで史跡説明をしながら歩きます。美濃路の楽しさが伝わることを願っています。

「あいちモリコロ基金」落選報告

公益信託 愛・地球博開催地域社会貢献活動基金、平成25年度展開期活動に「東寺町、南寺町史跡説明板設置」応募していたところですが、2月12日付で落選の通知が届きました。助成対象は50団体、応募総数110件、1次審査採択数は63団体でしたが、それにも入らない惨敗でした。

今後は手作りの史跡説明板を民有地に設置して行く、地道な活動を継続して行きます。



下御間商店街



石舞台

平成24年度第1回研修勉強会

バリアフリーデザイントイレセミナー

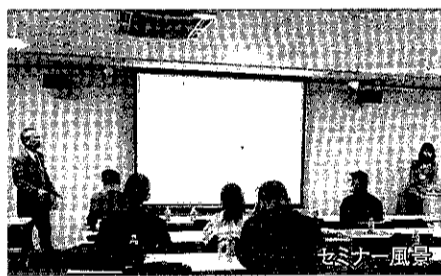
2月14日にTOTO名古屋ショールーム・マルチスペースにてTOTOの四辻和正様と美濃羽敏江様に講師をして頂き、「小空間トイレセミナー」が西支部主催の勉強会として開催されました。

狭い飲食店でのトイレ空間の提案に至っては、新築であればこだわる要素を盛り込んでも改装等では既存のトイレをただ綺麗にするような提案になってしまう事もよくあります。今回の講習では特に女性目線からトイレの問題点を「見える化」し、快適な空間への提案を分かりやすくまとめて講義していただきました。特に手作り感があるプレゼンが記憶に残りやすくインパ

クトもあり非常に参考になりました。音、汚れ、化粧、人とのすれ違い等、男子目線ではそこまで気にならないことを特に気にしている事も、このような「見える化」で理解しやすく参考になるものでした。どうしても設計者は異性のトイレでの心理を把握することは難しく、設計に反映するにはこのような情報を把握することが大事です。洗面器の位置一つでも利用者の利用の仕方に変化します。どうしてもプランの制約で元々あった場所に新しい綺麗なものを計画してしまうだけになりがちですが、設計者として一工夫をして快適な空間の提案をすることが大切だと感じます。実際の座

談会の様子を編集したプレゼンも座談会に参加した人の生の声を知ることが出来、参考になりました。セミナーの後にはTOTOのショールームで最新機器の紹介を頂きました。今回の中心はパブリックスペースの物が多く大変参考になりました。このような製品が設計の幅を広げるのだと思うとありがたく感じます。

図面だけを見ると、どうしても空間の数値だけでパブリックを設計しがちですが、細かい気配りの大切さを、改めて実感いたしました。



セミナー風景

第2回研修勉強会 鉄骨における検査と監理の基礎知識

3月21日にTOTOマルチスペースAにて、第2回研修勉強会が開催されました。今回は「鉄骨における検査と監理の基礎知識」という、建築士において設計監理の実践現場で役に立ち、又興味のある内容ということで、非会員の方からも数多く申し込みを頂きました。

前半は「溶接部の検査とその問題点」と題し、(株)ジャストの近藤浩氏から実際の現場で見つかった欠陥を数多くの写真を使って紹介して頂き、何故このような欠陥が生じたのか?それぞれについて

解説をしていただきました。建築士の検査としては加工完了時でのチェックが多い中、工程途中での溶接作業方法や下準備の不具合により発生したと思われる欠陥を、実際の検査時の写真を用いて解説して頂いたのが、非常に勉強になる内容でした。話では聞いていた「ダイヤフラムの偽造」の実際の写真を見て、本当にあった事例として再確認できました。又、検査結果報告書が100%信用できるものなのか?という検査員の立場から見た考察はなかなか聞けない話として興味深いものがありました。

後半は今回の勉強会の本題である「鉄骨における検査と監理の基礎知識」と題し、西支部会員の江口眞樹氏による講演でした。鉄骨工場の各グレードにおける制作可能適用範囲から、製品検査の重要性及び必ず確

認すべき事項、製作過程において部位ごとに起こりうる欠陥などを紹介して頂きました。更に、実際の監理の経験から、コラムの肉厚が薄かったり、H鋼のメンバーが違っていただけ、故意か手違いかは別にして、「図面に書いてあるから大丈夫」と現場任せにしておくと、想像以上のことが起こり得ること、特に材質に関しては塗装されてしまうと判らなくなってしまうので、監理の必要性が大きいと感じました。

今回の勉強会は普段の監理では見られない、聞いたことはあっても実際に見たことのない欠陥を、実物写真を見ながら解説して頂くという貴重なものでした。

西支部では年に2回このような勉強会を毎年開催しています。実践で役に立つ興味深い勉強会を企画して行きますので、今回は参加されなかった会員の皆様も是非ご参加頂きまして、勉強・実践に、更には会員同士の交流にもお役立て下さい。

住宅リフォーム・リニューアル工事、耐震補強工事
集合住宅・ビル・マンション・一般住宅・倉庫・工場・営業店舗

豊かな環境を創造する
株式会社 **ムラテ**
テレビ愛知毎週土曜PM6:30
「ホトチャンネル」CM提供中
URL <http://www.murate.com/>
〒453-0861 名古屋市中村区岩塚本通1-51 TEL052-411-8111 FAX052-413-1036
津島(営) TEL 0567-31-0780 名岐(営) TEL052-400-1291

愛知県 合格者占有率 **No.1** V12
平成23年度 1級建築士 設計製図試験 1級・2級建築士
愛知県の合格者の3人に2人以上は、**67.6%** 1級・2級建築施工管理技士
当学院の受講生でした。 1級土木施工管理技士
愛知県合格者262名中、177名が当学院受講生 宅地建物取引主任者
インテリアコーディネーター
TEL.052-202-1751
〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-2-22 中部資格ビル1F

私のおすすめ

仏様に会いに出かけませんか

中島 鐘重

昭和が終りを告げる61年、22年間続けたゴルフですが、ハンディ16が重荷になりかけた事と時の流れで、何となく通っていた為に身が入らず時間の無駄に気が付きサッパリ足を洗いました。昭和28年に奈良の楽師寺に遊びに行った時、三尊の内、月光菩薩の美しさに心を奪われて以来、仏の姿を観る事が趣味となって幾多の仏様と古い名刹の寺院巡りをする喜びを覚えました。暇を作ってあちこちの寺参りに出掛け仏像を見て来ましたが、ゴルフを辞めて時間が出来一層数多くの寺院巡りに励みました。

平成14年事業を閉鎖した時(67歳)に、今迄は気の向くままに寺参りを続けて来ましたが、重複した

り近くまで行っても立ち寄りなかつたりで、纏まりが無かったので、各寺巡りのシリーズに基づいて系統的に寺社巡りをする計画を立て実行に移しました。当初は600ヶ寺を計画しましたが、出かけるうちに少しずつ増えて最終770ヶ寺になりました。現在740ヶ寺を終了して残り坂東33観音の30ヶ寺を残すのみとなり、これも本年中に掛けて満願を果たす積りです。寺参りには別に何々巡りに拘らなくても良いのですが、系統を踏まえる事によって最後まで

の励みになって挫折をしない様になります。何度か足を運ぶことによりその寺を違った角度から眺める事が出来、お寺ばかりでなく周辺の暮しや風景町並み等色々な事柄が分かり、観光気分も大いに楽しめるようになります。変な観光地に出かけて遊ぶより、お金も少なく済み色々な勉強も出来て

両得です。寺参りをしていると何となく俗界から解放されて、

気持ちも穏やかになり不思議な心境になって来ます。私は別に信仰心はありません。従って手を合わせはしますが、お経を読んだりしません。それでも仏の前に立ってお顔を覗いていると、心の中で何か少しづつ変わって行く事が感じられます。皆さんも機会を作って近くの名もない寺から巡りを始めて下さい、楽しいですよ!



四国88ヶ所参詣01番：靈山寺本堂

大名古屋ビルヂング

渥美 大作

名古屋駅前のランドマークとして、長年に亘り名古屋の人々に親しまれてきた「大名古屋ビルヂング」、その解体工事が始まりました。

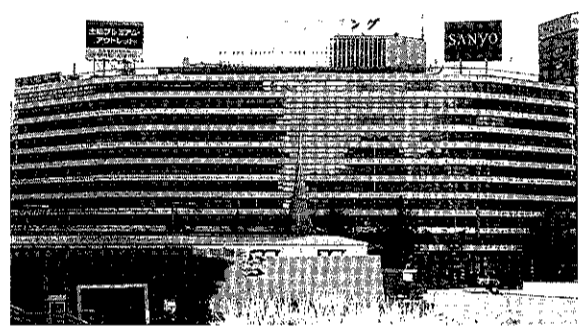
1965年の竣工から半世紀を待たずして、老朽化により建て替えられることとなりました。建物はこれまでの地上12階、地下4階、高さ53m、延べ床75,955㎡から、地上34階、地下4階、高さ180m、延べ床147,000㎡の超高層のオフィスビルへと変貌します。発表された外観イメージでは、低層部がビルの基壇となっており、そのボリュームや形状は旧建物の雰囲気を残しているように感じます。名古屋駅周辺は緑の少ないエリアですが、量感ある緑を配した屋上庭園を設けるということですので、あらた

な憩いの場になることが期待されます。名古屋駅前では、松坂屋が入居していた名古屋ターミナルビルが高さ220m、郵便局が200mのビルへと建て替えられる計画が進んでおり、現存の247mのミッドランドスクエア、245mのJRセントラルタワーズに続き、名古屋の玄関口に5棟の200m級の超高層ビルが立ち並ぶこととなります。

当該ビルはその特徴的な名称により知名度の高い建物でした。Buildingを日本式ローマ字により直すと「ビルヂング」となります。三菱地所が所有するビルの名称は、当時ほとんどがビルヂングだったそうです。また、「大」の字を冠したのは、「大名古屋圏の御用を務めてほしい」との施主の想いがこめられています。

個人的には、このビルは妻と初めて出会った思い出

深い場所でもあります。そのビルが建て替えられてしまうというのは寂しい思いがいたします。しかし、幸いにもこれまでのビル名は、新しいビルにも継承されることが決まりました。建物の名称が残ったことで、人々の記憶も受け継がれていくことでしょう。



第1回 名古屋まちなみデザインセレクション入選

委員長 原 英光

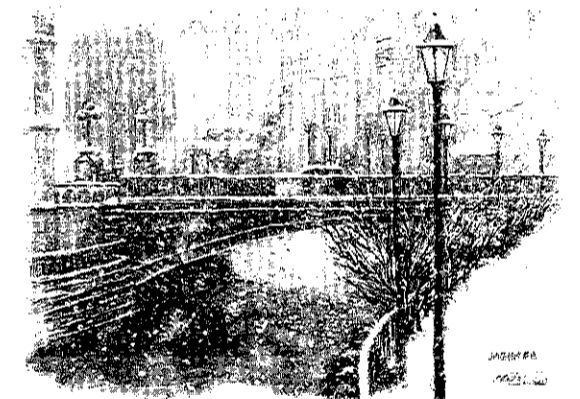
私たち名古屋西支部青年委員会で、支部の皆さんに呼びかけて集まった写真やスケッチの合計16点を名古屋市の「第1回名古屋まちなみデザインセレクション」に応募しました。

その中から見事、副支部長・岡田巖さんの「納屋橋の雪景色」のスケッチが市民投票の結果「まちなみデザイン20選」に選ばれました。皆様のご協力に大変感謝いたします。

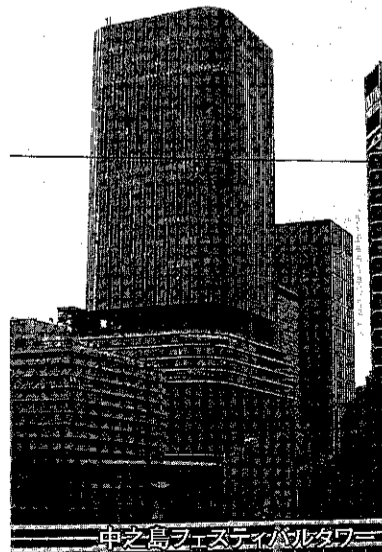
これからも名古屋西支部青年委員会では支部ホー

ムページや「めいせい」を通じて皆さんに協力をお願いかけ積極的にこういったイベントなどに参加していく予定ですので、身近な風景や建物などお気に入りの場所があったら写真に撮っておいてぜひ参加してください。

多くの方に参加いただいて今回のように喜びを共有できたら嬉しいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



大阪・中之島フェスティバルタワー見学会 水野 志保



中之島フェスティバルタワー

スカイテラス・スカイロビーのある複合施設です。2018年(平成30年)頃にツインタワーとなる予定だそうです。エントランスを入ってすぐの、圧倒されるような大階段は2~7階にあるフェスティバルホールへのアプローチで、世界の音楽家から賞賛されたフェスティバルホールの優れた音響特性を引き継ぎながら、最新鋭の設備を導入して生まれ変わるそうで、4月3日に開業式典を迎える準備中でした。13階のスカイロビーは屋外デッキとなっているテ

3月9日(土)に大阪 中之島フェスティバルタワー見学会に参加しました。このタワーは平成24年11月にオープンした新ランドマークで、レストランを中心に約30店舗が入ったフェスティバルプラザや緑豊かな

ラスもあり、植栽を配したりリフレッシュ空間になっていて、見学时ロビーでは東日本大震災関連の写真展が開催されていました。

大阪市役所もある中之島エリアは川に挟まれた東西約3kmも延びる中州エリアで、明治から昭和初期に建築されたノスタルジックな建物や美術館、公園もあるエリアです。

中之島フェスティバルタワーを見学した後は自由行動となったので、大阪市中央公会堂や適塾を見に川沿いを歩いて移動し「水都・大阪」を感じられる散歩になりました。

大阪市中央公会堂は大正7年築の辰野金吾氏と片岡安氏の設計によるもので、まだ役所等が木造だった時代にネオ・ルネッサンス様式の建物が個人の寄



大阪市中央公会堂

付で建てられたことに驚きです。平成14年にリニューアル・オープンし、多くの人に利用されています。私はこの地下

食堂で名物の限定オムライスを楽しみました。内部はインテリアとして赤煉瓦造表わし仕上になっていました。適塾は北浜のビジネス街にあって江戸時代のたたずまいをとどめる船場町屋建物で福沢諭吉らの人材を輩出した蘭学塾です。大阪大学の源流となっている適塾は文化遺産を保護するため東西のビルを撤去し、史跡公園化されました。適塾近くの大阪市立愛珠幼稚園は民間では日本最古の幼稚園で、今も使用されている日本最古の木造園舎を見学したかったのですが公開されておらず、一般公開の日に再度大阪を訪ねたいと思いました。



天井の落下事故 応力度の考え方について

解説担当 馬場 富雄

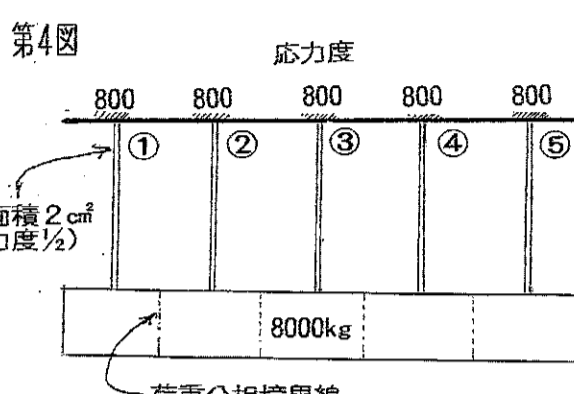
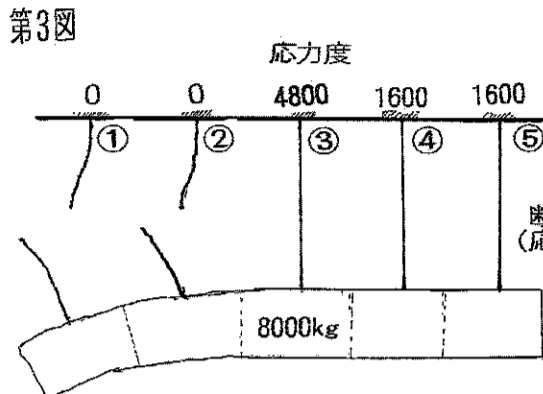
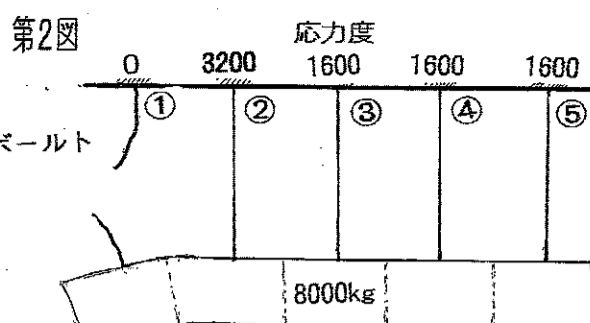
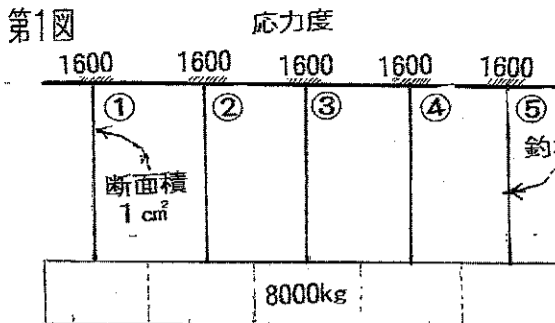
私の現役時代に人身事故を伴う天井落下事故は3回あった。一つはモルタル塗天井で表面の凸凹をなおすため何回も塗り直し、重量が設計値の3倍くらいになり落下した。二つめは、施工ミスで釣り木を丸太の同じ側で留めてあったため釣り木の重量で丸太が回転したもの、三つめは、手抜き工事で釣り木の数が設計より不足し、一本の釣り木の負担が増したものの、以上いずれも釣り木やボルトがその重量に耐え切れなくなったものがその原因である。このことをモデル化して説明する。

第1図は釣りボルトの断面積を1cm²とし、1本当たり1600kg重の応力度を負担させて設計したものの例である。なにも変化がなければそれでよいが、経年劣化等いずれかの原因で①番のボルトが破断した時のことを考える。第2図に示すように破断したボルトの負担分は即②のボルトが負担することになり、②のボルトは今までの倍の荷重を負担し、その応力度は3200となる。これは破断の数値の近くまで切迫し、きわめて危険である。

②のボルトがもし破断すれば、荷重負担は第3図のようになり、③のボルトの応力度が4800ともなれば、もう論をまたない。次から次へと釣りボルト全部が破断してしまうのである。

では、この大事故を防ぐためにどのように考えて設計したらよいのか？それは神の設計を学べばわかる。すなわち人間のカラダの構造、仕組みは、我々人間の頭脳で設計したものではなく、神の設計したものである。人間のカラダを構成する何億という細胞のひとつひとつが酸素の供給を受けている。そのために心臓という高性能の小型ポンプで酸素を含んだ血液をパイプ(血管)を使って全身に送っている。この血液を輸送するための圧力を血圧という。(血圧についての単位は省略)

血圧がなにかの原因で異常に高くなると血管に大きな引張力が働く。さらに血圧が限界を越えれば血管の組織の弱っている部分でパンクする恐れが出てくる。では、そのような限界の血圧はどのくら



いかというと中高年の場合血圧がだいたい300を越えると血管のパンクの恐れが非常に大きい。

我々が材料力学で習った材料の破壊応力度を血管に当てはめてみると、血管の破壊応力度は300ということになる。それでは、この破壊応力度の何分の一で通常の安全を確保しているかということ、神の設計では血圧がだいたい120~130でカラダが無理をせず適応するように設計してある。よって、通常は破壊応力度の3分の1の血圧で生活するのがよい。この3分の1という理由を考えると非常に深い意味がある。すなわち、現在かかっている応力に何かの原因で倍の力がかかっても応力度が3分の2となるだけで、まだ1には若干の余裕があるのである。このことが血管パンクという大事故を未然に防いでいるのである。

この神の考え方で第4図のように設計したとすれば①の釣りボルトが切れても②のボルトがしっかりと①のボルトの負担分を受けもって大事故にならないのである。我々が設計する鉄骨建物でも鋼材の応力度を破壊応力度の3分の1、すなわち800~1000くらいで設計すれば安全性は大きいですが、どうしても部材が太くなり、「ごつい設計」だとか、「金がかかる」とかいう苦情をうけるのが実情である。しかし、

天井のように天井全体を複数のボルトで釣る場合は、たとえ釣りボルトの1本が切れてもなんとか安全を保つという設計でなければならない。材料強度の余裕が小さな事故に収まるようにしています。私は現役時代に仕事の関係上多くの構造設計の方々と接触したが、構造の安全を重視し鋼材の応力度を800~1000になるまで部材を太くする方もあれば、建築基準法施行令で定める許容応力度ぎりぎりまで部材を細くする方もある。建築確認の立場からは設計方針について意見は言えないが、大地震あるいは火山の噴火等が心配される昨今、安全な建物が増えることを願っている。よく巷で、「あの先生に頼むと鋼材量が少なく済むので……」などという評判の方もいるが、安全性との関係を考えて大きな問題を含んでいるのではなからうか？

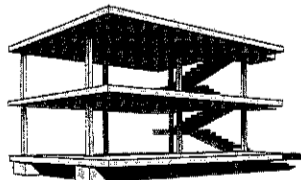
問題 「応力度」の説明で適切なものは、次のうちどれか。

- ① 全体の応力との比率のこと
- ② 材料の単位断面積当たりの応力のこと
- ③ 他の応力との比較を示す数値

コルビジェを訪ねて 志賀 勝則

“サヴォア邸”

フランス・パリから北西へ30kmのボアシー市に週末住宅として建てられたサヴォア邸。



ドミノシステム(1915年)

1931年(昭和6年)、コルビジェ42才の頃の作品。スイス生まれの彼は、故郷で絵画・建築を志し、有名な「ドミノ理論」を発表(28才)。コンクリートの列柱に床版の組み合わせという単純で低廉なシステム。これにより提唱する「建築5原則」が実現可能になり、作品を送り出す。すなわち、①ピロティ ②屋上庭園 ③自由な平面 ④連続窓 ⑤自由な

立面。石造り特有の重く厚い壁、小さな窓の制約から解放されたこの軽快な作品が近代住宅建築の幕開けとなりました。

1960年頃には廃墟と化し、取壊しが決定されるが、世界中の建築家、識者から激しい反対運動が起こり、保存が決まる。今ではフランス政府の世界遺産として、又近代建築の傑作として世界中から建築を志す人たちが訪れている。



サヴォア邸(1931年)

春夏秋冬

近代建築の巨匠「コルビジェ(1887~1965)」の作品を見たいと以前から想っていたが、昨年秋にその機会が訪れた。ニュース、マルセイユで3日間。リヨンなど中部フランスで3日間。パリ及びその近郊で3日間。機中泊を含めて10日間の旅。コルビジェ作品とプロバンス、コートダジュールの中世教会を中心に精力的にバスで巡りました。本来ならば20代の頃に見たかったのですが…。拙文ですが報告として本67号より10回の連載を予定しています。志賀 勝則

編集後記

めいせい50号から広報委員長を担当させていただきましたが、67号をもって次期委員長さんにバトンタッチすることになりました。3期6年にわたり役員・会員の皆様には無理な原稿依頼をお願いしたにもかかわらず快く引き受けてくださり、誠にありがとうございました。また、細やかな気配り・目配りが出来ず、原稿のチェックミスもあったりと、委員長としては失格でしたが、あたたかいご意見・励ましのエールをいただき、重ね重ねありがとうございます。今後はこの経験を活かし、委員として側面からめいせいをサポートさせていただきたいと思っております。森 登

国土交通省大臣認定 建築技術性能証明 建築技術性能証明

SMD杭 スーパーミドリル

DM工法 SMD杭工法シリーズ

HITSコラム スラリ-系機械挿入式 深層混合処理工法

造園 外構工事・公共工事 地盤調査・地盤改良 SMD杭製造・販売 石材加工・販売

株式会社 本陣

〒461-0048 名古屋市中区新栄三丁目13番7号
TEL: 052-722-3000 FAX: 052-722-8311
E-mail: info@honjin.co URL: http://www.honjin.co

Total Media Support

WELL ON 株式会社 ウェルオン

〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目21番31号
TEL 052-732-2227 FAX 052-733-3178
URL http://www.well-on.co.jp/

16190101(03)